

## 第13回宇宙科学・探査部会 議事要旨

1. 日時：平成26年7月18日（金） 9：00－11：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井部会長、小野田委員、櫻井委員、田近委員、永原委員、山川委員、山崎委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、深井宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 基本政策部会について

事務局から、資料1、2に基づき説明があった。以下のような意見があった。

○基本政策部会における、「安全保障と連携した宇宙政策の在り方」、「宇宙開発利用及び基盤整備に関する中長期ビジョン」の検討に向け、宇宙科学・探査部会としても宇宙科学・探査、有人について議論を進めていくべき。

○中長期ビジョンについては10年程度を見通すべき。

(2) 中長期ビジョンの検討について

○宇宙科学・探査ロードマップの実現をまず目指すのが基本的立場ではないか。また、それを効率よく進めるにはイプシロンロケットの高度化が期待されるため、輸送系との連携が必要。

○現在の計画の意思決定はボトムアップが基本だが、大型計画について国際的な優位性の確保が困難になってきているため、大目標を立て、その実現を目指して中型計画、小型計画をコミュニティで考える必要があるのではないか。宇宙、太陽系の起源・進化、生命の進化などが考えられる。

○現在進行中のプロジェクトを確実に進めつつ、さらに今後の中型計画としては火星探査、赤外線観測のSPICA、小型計画として高精度の月着陸技術の実証を目指すSLIMなどが考えられるのではないか。

○具体的なプロジェクトについては、その計画の内容を見て議論したい。SPICAの価値をサイエンスの観点で議論し直すことも必要。

(3) 有人宇宙探査について

文部科学省から、資料3に基づき説明があった。説明の後、以下のような意見があった。

○有人活動、有人探査、国際探査があいまいに議論されているのは問題。有人と無人も同列に論じられない。中長期ビジョンの検討に向けた考え方を検討すべきである。

以上